

「海をきれいに、安全に、秩序正しく」

海上保安友の会札幌支部

会 報 (第 3 2 号)

平成 3 0 年 3 月 7 日 発行



第 2 0 回小樽雪あかりの路にライトアップで参加した「巡視船えさん」 (2月9日)

【掲載内容】

- ☆ 巡視船えさん船長挨拶
- ☆ 平成 2 9 年度小樽海上保安部主な出来事
- ☆ 石狩灯台について
- ☆ 投稿記事・写真
- ☆ 就役巡視艇・航空機情報

海上保安友の会札幌支部事務局

〒 0 4 7 - 0 0 0 7

小樽市港町 5 番 2 号 小樽地方合同庁舎

小樽海上保安部 管理課 内

電話 0134-27-6118 F A X 0134-23-9700



海上保安制度創設 70 周年

会員数 2 1 7 名 (正会員 102 名、家族会員 115 名) (H29.10 現在)

新えさん船長ご挨拶

巡視船えさん船長
菊地 元



「厳しい自然環境」の中、頑張ります！

海上保安友の会札幌支部会員の皆様、海上保安業務へのご理解とご支援、大変感謝しています。

昨年9月1日、沖縄県石垣市から転勤してきました巡視船えさん船長の菊地元（はじめ）と申します。

室蘭市出身の道産子で、今年54歳になります。よろしくお願ひします。

私は昭和61年3月に海上保安学校（京都府舞鶴市）を卒業し、根室市に赴任しました。根室と言え、北方領土と隣接する、当時も今も大変重要な場所で、そこでは海上保安庁の幹部はもちろん、大臣・政府関係者、国会議員等の視察も頻繁に行われます。

これらの視察につきものなのが「訓示」です。「早く終わらないかな～」なんて思いながら聴いていたと思いますが、その中で覚えているのが「この厳しい自然環境の中、重要な…」という一言です。根室で行われた訓示では、決まり文句のように、必ずと言っていいほど入っていたものと記憶しています。

北海道で生まれ育ち、寒さも吹雪も路面凍結も当たり前と思っていた私には、当時この「厳しい自然環境」という言葉が、今一つピンとこなかったのですが、その後、全国各地を転勤して歩くことにより、「北海道の冬はつらいんだ。北海道の冬は普通じゃないんだ。（っていうか北海道って異常？）

できれば暖かく雪のない所に住みたい！」などと考えたりもしたところですが、この度、巡視船えさんの船長として北海道・小樽に帰ってきましたので、日本海の時化に負けないように気合を入れ直しているところです。

巡視船えさんは、今後も地域の安全・安心のため、乗組員一同「厳しい自然環境の中」頑張ります。皆様も引き続き暖かいご声援をよろしくお願ひします。

【最後に】

前任地の石垣島もいい所でしたが、人間生まれ育った場所が一番なのでしょう。北海道に帰ると、心が休まる気がします。

《平成29年度小樽海上保安部の主な出来事》

【5月】

- ◎ プレジャーボート3隻が相次いで機関故障により航行不能



【6月】

- ◎ 余市町海岸において、悪質な「ナマコ密漁グループ8名」を摘発



- ◎ 海浜事故を想定した官民一体合同潜水訓練実施
～前年石狩浜で発生した4名同時死亡事故を受けて



【7月】

- ◎ 9年振りに小樽沖で第一管区海上保安本部総合訓練実施



- ◎ 夏季救難即応体制強化～石狩港湾MPS開設（マリンパトロールステーション）



- ◎ 無通報で小樽港に入港した外国船船長を逮捕



◎ 小樽潮祭り～潮ねりこみに友の会も参加



【8月】

◎ 神威岬灯台一般公開～「恋する灯台 2017」に認定



◎ 銭函海岸で遊泳中の高校生 3 名死亡事故発生



【搜索状況】

【9月】

◎ クリーンアップ石狩新港浜海浜清掃へ参加



【10月】

◎ 巡視船専用岸壁～色内ふ頭から第2ふ頭へ移転



【小樽港色内ふ頭に係留中のえさん・しれとこ・ほろべつ】

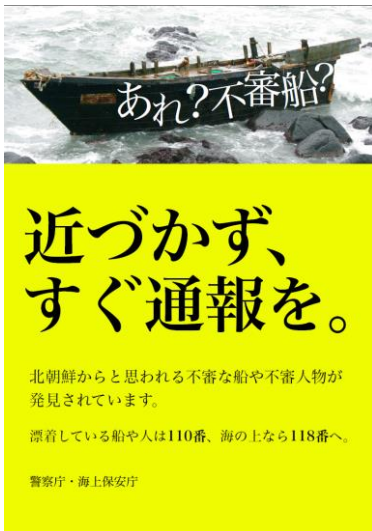
◎ 石狩灯台一般公開～石狩灯台初点灯から 1 2 5 周年記念

【12月】

◎ 年末年始特別警戒




◎ 北朝鮮の木造漁船が松前小島に漂着～管内注意喚起



道民の皆様へ
見慣れない船などを見つけた場合は
118番(海上保安庁)又は110番(警察)

どこの国から来たのか分からない船が、
本道に流れつくことがあります。
見慣れない船を見つけたときなどには、
近づくことなく、速やかに、
海上保安庁(118番)又は警察(110番)
に通報してください。



北海道 総務部 危機対策局 危機対策課
総合政策部 国際局 国際課
水産林務部 水産局 漁業管理課
〒060-0588 札幌市中央区北3条西6丁目 電話 011-231-4111

【1月】

◎ 新年恒例、ほろべつによる年頭潜水訓練実施



◎大雪の影響により、小樽運河内で小型船2隻が相次いで沈没・横転



石狩灯台一般公開&ライトアップ！ ～石狩灯台初点灯から125周年記念～

小樽海上保安部
吉本昭雄



【一般公開の様子】

【一般公開の様子】
たのですが、友の会の皆様をはじめ、約600名もの多数の見学者に会場いただきました。

平成29年10月22日（日）午前10時から午後4時まで石狩灯台一般公開を実施するとともに、日没後の午後5時から7時までに2時間は灯台のライトアップも行いました。

石狩灯台は映画「喜びも悲しみも幾年月」の舞台になった灯台であり、1892年の設置からちょうど125周年を迎えることから、石狩市で記念イベントを開催することに併せて、灯台一般公開などを行ったもので、今年度の修繕工事で灯台外壁が塗り直されて、きれいな姿になってから初めての一般公開となりました。

当日の天候は曇り、風が強く気温も低かった。

石狩灯台は明治25年1月1日に当時の北海道庁により木造の灯台が設置され、その後、明治41年に鉄造りの灯台に建て替えられています。この鉄製の灯台は建て替えられることなく維持されてきましたが、灯塔の老朽化が進み、また、砂州上での耐震性の向上などを目的に平成11年の移設保全工事を実施しました。これは北東方向約15メートルの小高い所に強固な基礎を築き、そこへ灯塔を吊り込み移設し、明治時代の灯塔外板の外側に新しく鉄製の壁を造る方法で改修しました。

【内壁と天井の様子】



工事では、灯塔内部の木製の壁や天井などを保存するために板を1枚1枚、丁寧に外し、移動後に再び元に戻しています。その際に劣化した部材は新しいものと交換していますので、1階部分の内壁には継ぎ接ぎした跡が多く見られます。また、2階、3階の東側内壁には、筒状の張り出しがあります。これは分銅筒と呼ばれ、電化される前に時代にレンズを回転させる動力として、錘になる分銅が吊り下げられていました。

石狩灯台が「現存する道内最古の灯台」と言われるのは、内側に明治41年製の灯台が保存されているということで、外から見えている灯塔や灯ろうの部分は真新しい平成時代のもので、灯器(光を出す装置)も平成20年に換装されたもので多くの沿岸灯台で使われているものです。この灯台を見学にこられた際には是非とも、内部の造作を見ていただきたい。

ここで初代の木造灯台ですが、北海道庁が開拓を進めるためには海上交通路の確保が急務だった時期で建てられた20基のひとつです。本来、灯台は石やレンガで造られる時代でしたが、北海道庁が建設した灯台は木造が多く、これは短期間に完成させる目的であったと推測されます。木造の六角形で高さが約13メートル、光源は石油単芯灯で、レンズは3面1層の不動レンズ、光達距離は6海里と記録されています。石狩川の河口は現在、北側に移動してしまいましたが、灯台建設時には河口がすぐそばで、この時代、河口付近は石狩川の河川交通の要所だったそうです。灯台は石狩湾から河口を目指すときの目標にされていたと思われます。

その後、明治41年に鉄造の灯台に改築されます。光源は石油単芯灯で、第6等閃光レンズを水銀槽式回転機械で、光達距離は12.5海里と記録されています。この時のレンズと回転機械は、近くのはまなすの丘ビジターセンターで展示されています。



【展示中の里帰りしたレンズ】

初代の木造灯台は16年間で建て替えられ、閃光レンズを使うことで光達距離は2倍になりました。背後に山等の目標物のない石狩浜では、小樽港沖あたりから見えている必要性があったのかも知れません。

回転機械の分銅は4時間20分毎に巻上げなければならなかったそうですが、昭和2年に電化され、光源は電球に、分銅は電動機に置き換えられ、この巻上げの作業からも開放されたものと思います。



【レンズの刻印】

映画「喜びも悲しみも幾年月」と石狩灯台の赤白塗りには、おもしろいエピソードがあります。

この映画が撮影された頃はカラー映画の初期であり、当時、白黒横線塗りの灯台では、カラーで撮影しても色彩効果が得られないため、要請を受けて陸側を赤白塗りに変更しましたが、この赤白塗りが積雪期における識別性がたいへん良い事が判り、昭和32年に灯塔塗色を赤白横線塗りに変更したそうです。それまで雪が積もる地域の灯台は白黒横線塗りしか無かったのですが、道内各地の灯台が次々と赤白に塗り替えられて行きました。日本での赤白塗り灯台を生みの親は木下啓介監督の映画でした。

話題が昔話に脱線しましたのでイベントの様子について、書きます。

石狩市観光協会の記念イベントでは、灯台女子の不動まゆうさんも来道し、スイーツやコーヒーとともに灯台についてのトークを楽しむ「灯台を好きになっちゃうカフェ」が行われました。併せて、不動さんご自身が年4回発行しているフリーペーパー「灯台どうだい？」の取材も行なわれました。一般公開の様子は「灯台どうだい？」のほか、インターネットで動画も公開されています。

このほか、ビジターセンターでは、約半世紀ぶりに里帰りした前述の2代目レンズの除幕式が行われ、フランス製の第6等閃光レンズが皆さんに披露されました。

また、灯台一般公開終了後の照明機材を準備し、ライトアップを行いました。不動まゆうさんが「5・4・3・2・1・点灯！」とカウントダウンし、午後5時ちょうどにライトが点灯されました。普段は「灯台基暗し」ですが、この日は「灯台基照らし」でめったに見られない夜の風景にカメラを持った皆様やお客様が様々なアングルで撮影されていました。

今回の一般公開では、灯台内部が狭隘なうえ途中に急峻なタラップがあり、また、なるべく多くの方に見ていただきたいために1階と2階の内部のみを公開しました。それでも長い待ち時間となってしまいました。

来年度からは友の会のイベント等に併せ、会員の皆様向けの見学会なども計画する予定です。

※画像の一部に札幌支部会員である高橋司氏が撮影したものを同氏の了解を得て、ブログからダウンロードして使用しています。



【ライトアップの状況】

【投稿コーナー】

灯台歴史散歩



日和山灯台(小樽海上保安部)

海上保安友の会 札幌支部理事
高橋 成香

今年は日本に灯台が設置されてから 150 年の年になります。

海上保安庁の業務となると救難や警備といったものがイメージされることがほとんどですが、灯台の管理も同じ海上保安庁の業務になります。

その灯台の歴史について今回は触れてみたいと思います。

その起源として一説には紀元前千数百年頃には灯台のようなものがすでにあつたといわれています。きちんと記録として残されているものは古代エジプト王朝時代で、ナイル川の河口の高台に焚火をして船の目印にしていたそうです。

さて、日本の灯台となると歴史に残る記録としては 829 年、遣唐使の帰りの遅れを憂慮し大宰府でのろしやかがり火を 10 か月間燃やし続けたというものが始まりのようです。

その後江戸時代にはかがり火や「油灯明台」と言われる日本式の灯台が 105ヶ所あつたとのこと。

幕末、黒船来航により鎖国が解かれ英・仏・米・蘭の 4 カ国と「下関条約」を調印することとなります。

その中に灯明台の設置が規定され洋式灯台が建設されることとなりました。そして我が国最初の洋式灯台が 1868 年に起工されました。

それが観音埼灯台（神奈川県横須賀市）になります。

起工日が 11 月 1 日、現在それにちなんでその日が灯台記念日に定められています。この観音埼に灯がともったのは翌年の 1 月 1 日、美しいフランス風の灯台だったそうです。

灯台の役目は船からの目標となることでもあります。そのため、遮るものが

なく遠くまで光が届かなければなりません。おのずと海に向かって遮るものがない場所に建てられることとなります。そのような場所は大抵の場合断崖絶壁の地形になっており、灯台を見学に行ってもたどり着くまで結構な距離を歩いたり山坂が多かったりでなかなか大変な立地です。

昔はそんな場所にも職員とその家族が常駐し灯火を絶やさない努力を続けてきました。それは大変な苦勞だったと推測できます。

大変な場所ゆえ、景色も素晴らしい所ばかりです。晴れた日などは地平線の彼方まで見渡せる気がするくらい絶景が広がります。

この150年の歴史に思いをはせながら絶景を楽しみに、是非一般公開に足を運ばれてみてはいかがでしょうか。



浜辺のごみ拾い—40年目

海上保安友の会 札幌支部
理事 丹羽 祐而

光陰矢の如しという諺があるが、いまその言葉の意味を噛み締めている。

『浜辺と海をきれいにする会』というやや長めの名前の団体に所属し、40年目を迎える。毎年、海水浴シーズンが終わった海岸で、強者が夢の跡とも言えるような汚れた砂浜を綺麗にするという活動を当会は実施している。これはビジネスではなく、正真正銘のボランティアの活動である。



さて、ごみ拾いの実施日であるが、かなり以前より9月の第一日曜日となっている。

第一回目は、海水浴場の石狩浜で開催したと記憶している。晴れてはいたが、波の荒い日だった。当日の参加者であるが、千人近くが浜に参集したよ

うにと、これも淡く記憶しているのである。

ところで、これも明確に覚えてはいないが、かなり以前より私が会長役となっている。とは言っても、所謂リーダーではなく、ボランティア活動全体の空気創り役がメイン業務であると認識している。

次にごみ拾いをする会場であるが、40年の間あちこちの海岸を移動している。銭函、大浜、望来などでも実施し、近年は石狩新港浜で継続開催となっている。更に、毎年の参加者数であるが、雨天決行で運営されているが、毎年千人規模が来浜しているのだ。この規模でごみ拾いを実践すると、2時間弱で広い浜も、本来の美しい砂浜に復元されたのである。



【丹羽会長による開催挨拶】

【参加者記念撮影】

継続は力という言葉があるが、各方面からの表彰が時折ある。近年としては、平成28年6月8日に環境大臣から地域美化功績者の表彰を受けたのである。37年間の活動に対してであったので、1000人×37年とすれば約4万人の参加者の功績が認められたことになるのであろうと思った。

初回よりのテーマ「美しい心で美しい地球を～」掲げて、本年、クリーンアップ活動は、40周年を迎える。とても大きな節目と考えるのだ。今一度、当テーマを再考しながら第一日曜の9月2日に向けて行動をと強く思うのである。



小樽潮練りこみ

海上保安友の会札幌支部
会員 今井 譲



【小樽市内中心部】



【ガンバレ海保うしお会!!!】



【小樽駅をバックにゴールへ】

第20回小樽雪あかりの路

海上保安友の会札幌支部理事
長谷山 豊



【小樽運河】



【小樽地方合同庁舎前】



【カトリック小樽教会富岡聖堂】



【小樽サンモール一番街】

【就役船艇・航空機情報】

- ◆ 釧路海上保安部所属巡視艇「あさかぜ」が、本年2月27日に解役し、その代替として、3月13日に新造の小型巡視艇「あさかぜ」が同保安部に就役します。

今回就役する小型巡視艇は、旧型の巡視艇に比べ、最新の機器を装備し、夜間監視装置による搜索監視能力の向上、停船命令等表示装置による視覚情報伝達能力の向上等海上保安業務全般に渡り対応能力の充実強化が図られています。

船名；あさかぜ

所属；釧路海上保安部

番号；CL172

要目；総トン数 約26トン

長さ 約20.0メートル

幅 約4.5メートル



- ◆ 第一管区海上保安本部千歳航空基地にテキストロン・アビエーション式172S型が5機就役します。

同機は、今後、海上保安庁における飛行機操縦要員の養成体制備を進めるために必要

な教官要員予定者の技量維持等を行うため、平成31年度末までの間、第一管区海上保安本部千歳航空基地に配属される予定です。

型 式：テキストロン・アビエーション式172S型
略 称：セスナ172
製 造：テキストロン・アビエーション社（米国）
機体の要目：全 長 8.28m
全 巾 10.97m
全 高 2.72m
自 重 813kg
座 席 数：4名
愛 称：あまつばめ



【海上保安制度創設70周年記念ロゴマーク】

【デザインのイメージ】



海上保安制度創設70周年

日本のみならず世界の海洋安全のトップを走り、全体の秩序をつなぐイメージを、世界地図を背景に「70th」の文字が繋いで守っていくことで表しています。

コンパスが安全に導く星を表現しています。

「70th」の「0」の円に、過酷な状況でも花を咲かせ実は人々に役立つ梅の花と日本地図を配することで、70年「正義仁愛」の精神を礎にこれからも邁進していくイメージをデザインしています。

♪♪原稿・写真募集中♪♪

会員皆様の投稿記事又は写真などをお待ちしていま～す。
次の送り先に郵送又はFAXにて送付してください。

送り先：海上保安友の会札幌支部事務局
〒047-0007 小樽市港町5-2 小樽海上保安部内
TEL0134-27-6118 FAX0134-23-9700